

J A たじまの環境**創造**型農業と
コウノトリ育むお米について



JAたじまの概要



主な農畜産物

- ◆ 米
- ◆ ピーマン
- ◆ 但馬牛

- ◆ 朝倉さんしょ
- ◆ 岩津ねぎ
- ◆ だいこん
- ◆ ほうれんそう
- ◆ 小豆

■ 但馬地域の概況

- 兵庫県の北部
但馬地域（3市2町）を管内
- 県面積の約1/4
（東京都の総面積に匹敵）
- 人口 約15万1千人(R5.4.1)
（県人口の約3%）

■ JAたじまの概況(R5.3.31)

- 組合員数 46,378人
（うち正20,272人）
- 貯金 3,732億
- 貸出金 568億
- 共済 9,538億
- 受託販売 57億
- 購買 28億
- 役員 理事 29名
監事 7名
- 職員数 702名

■ J A たじま コシヒカリ16区分

区分		特裁	地域
1	但馬コシヒカリ		平場
2	ふるさと但馬米	*	平場
3	みかた棚田米		中山間
4	自然乾燥米		中山間
5	つちかおり米	*	但馬全域
6	コウノトリ育むお米 (減農薬タイプ)	*	但馬全域
7	コウノトリ育むお米 (無農薬タイプ・有機JAS)	*	但馬全域
8	あいがも米	*	豊岡

区分		特裁	地域
9	神鍋米		日高
10	かにのほほえみ	*	香住
11	村岡米 (極)	*	香美町
12	村岡米 (堆肥米)	*	香美町
13	村岡米 (無農薬)	*	香美町
14	棚田百選米		香美町
15	ペーパーマルチ (養父)	*	養父市
16	蛇紋岩米 (令和5年産米より特裁へ)	*	養父市

令和4年産米の特裁比率 38%

—環境**創造**型農業—

環境への負荷軽減と安全安心な農産物の生産につながる農業

生物多様性を新たに生み出していく農業

主な特別栽培米の農薬・化学肥料の使用成分

区分	農薬			化学肥料
	除草剤	殺菌剤	殺虫剤	
コウノトリ育むお米 (無農薬)	使わない			使わない
コウノトリ育むお米 (減農薬7.5割減)	3成分以内	使わない		使わない
つちかおり米	使用成分が慣行の5割以下			本田は有機質肥料 (育苗のみ)
ふるさと但馬米	使用成分が慣行の5割以下			慣行の5割以下

コウノトリ育む農法の誕生

コウノトリ

- ・全長：約110cm
- ・翼開長：180～200cm
- ・体羽：白色
- ・風切り羽：黒色
- ・嘴：黒色、約25cm
- ・目の周囲：赤色
- ・脚：赤色
- ・餌（水田および河川の）
どじょう
ふな
バッタ など



古くから、コウノトリと一緒にみんなで暮らしていた



写真提供：富士光芸社

1960年8月 市内出石川



豊岡市 提供

昭和34年

巣塔の下で

農薬が散布される様子

野生のコウノトリ

1971年（昭和46年）絶滅

最後の生息地 『豊岡』

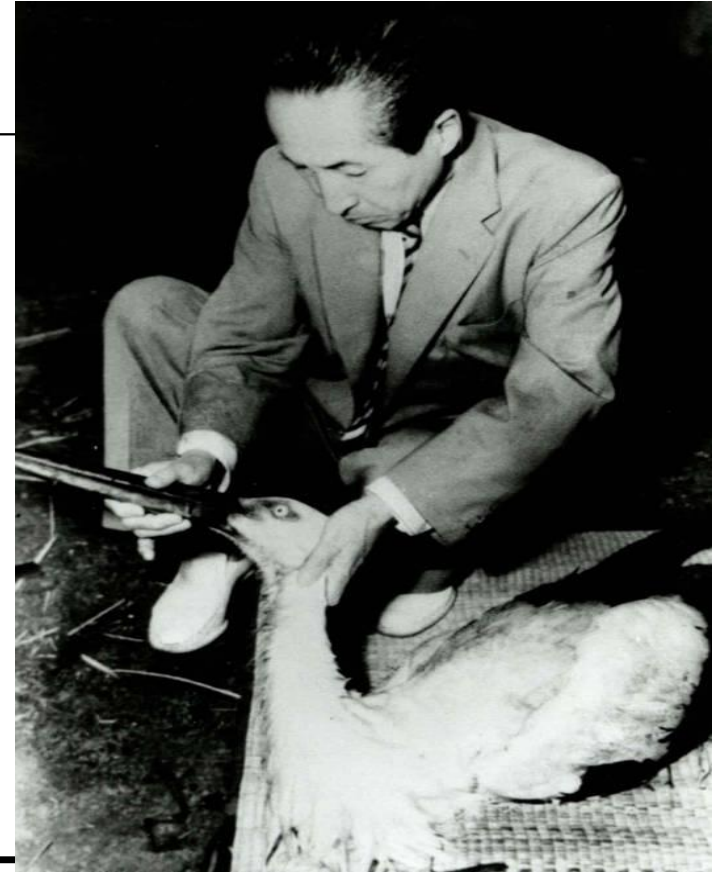
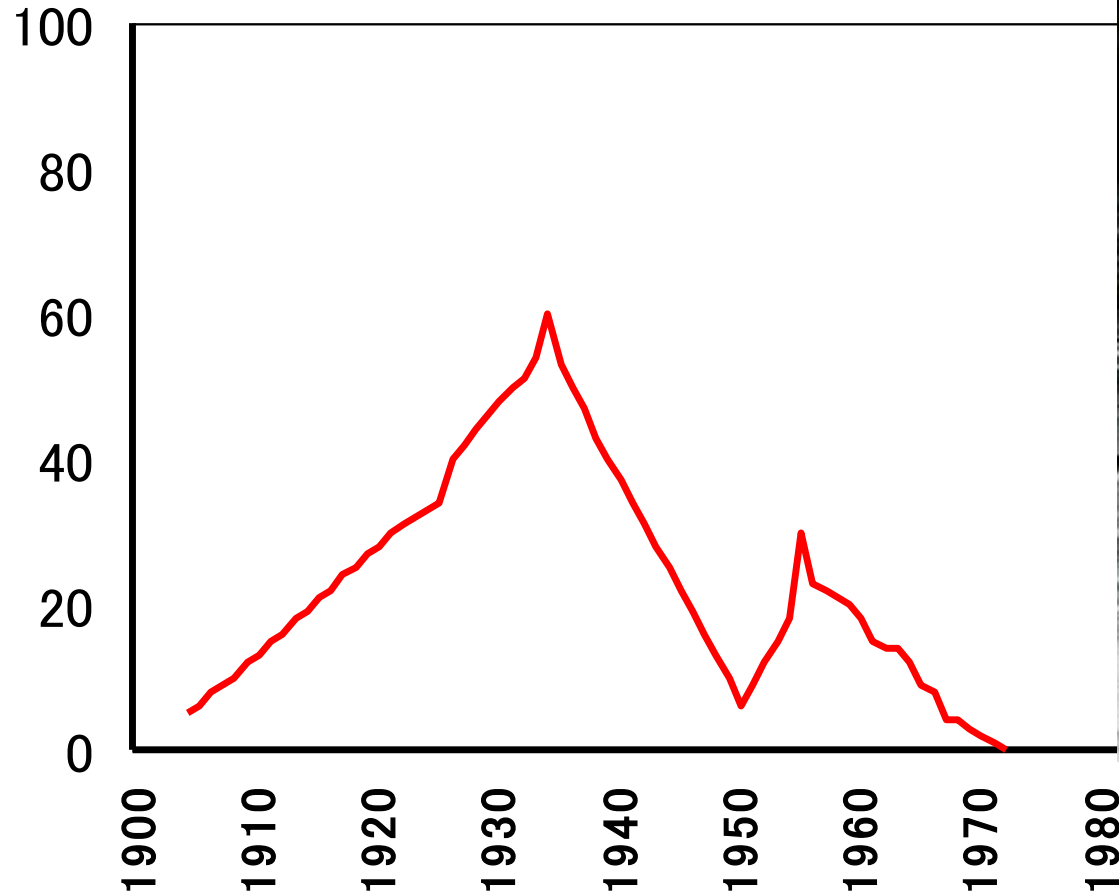
絶滅の理由

明治時代以降の乱獲

経済発展に伴う生息地の開発・汚染の拡大

農薬を大量使用する農業の拡大

豊岡における コウノトリ個体数の推移

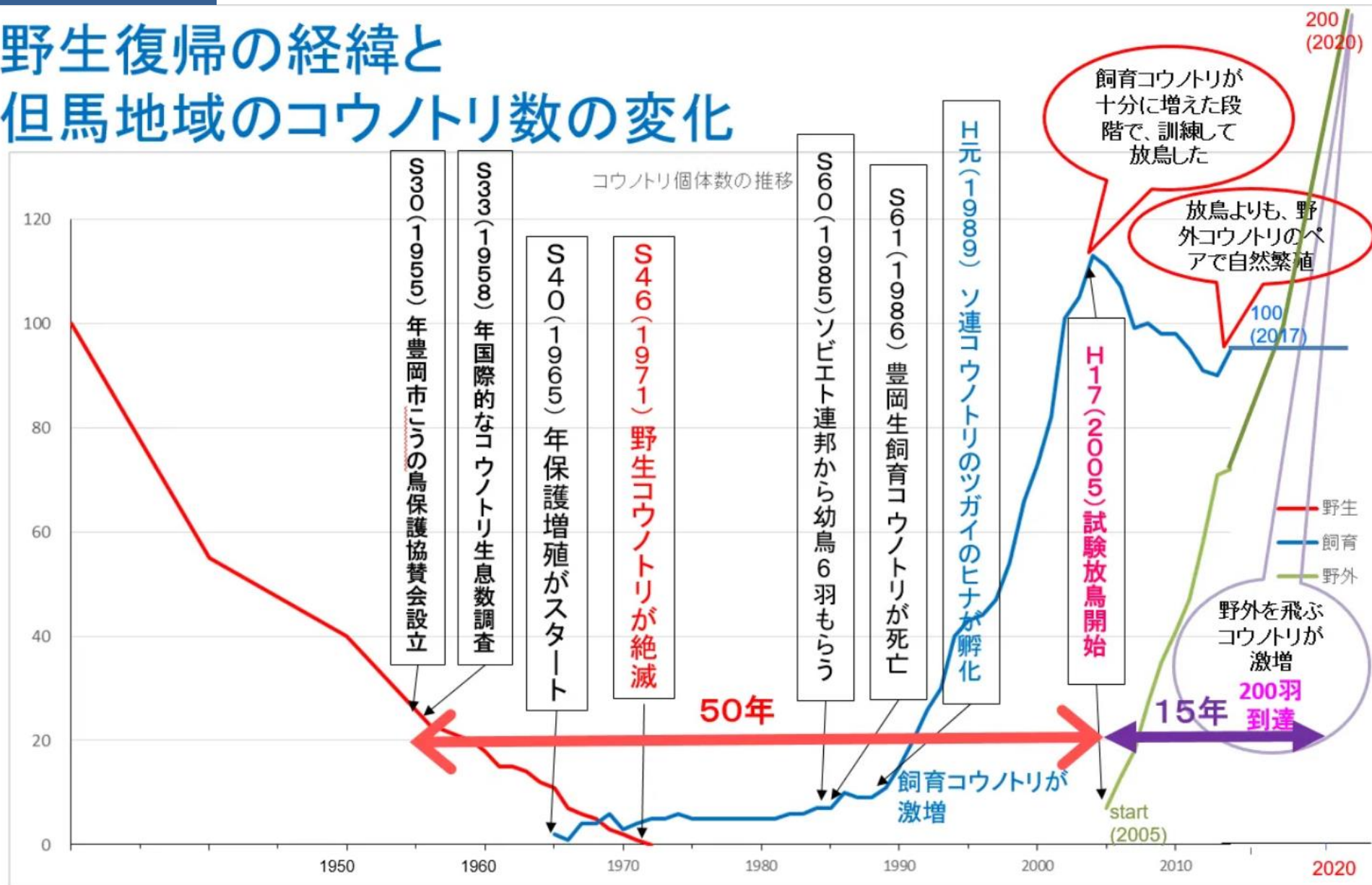


1971年

(昭和46年) 絶滅

豊岡市 提供

野生復帰の経緯と 但馬地域のコウノトリ数の変化



コウノトリ絶滅の主な要因

農地の乾田化

農薬の使用によるエサ生物の減少

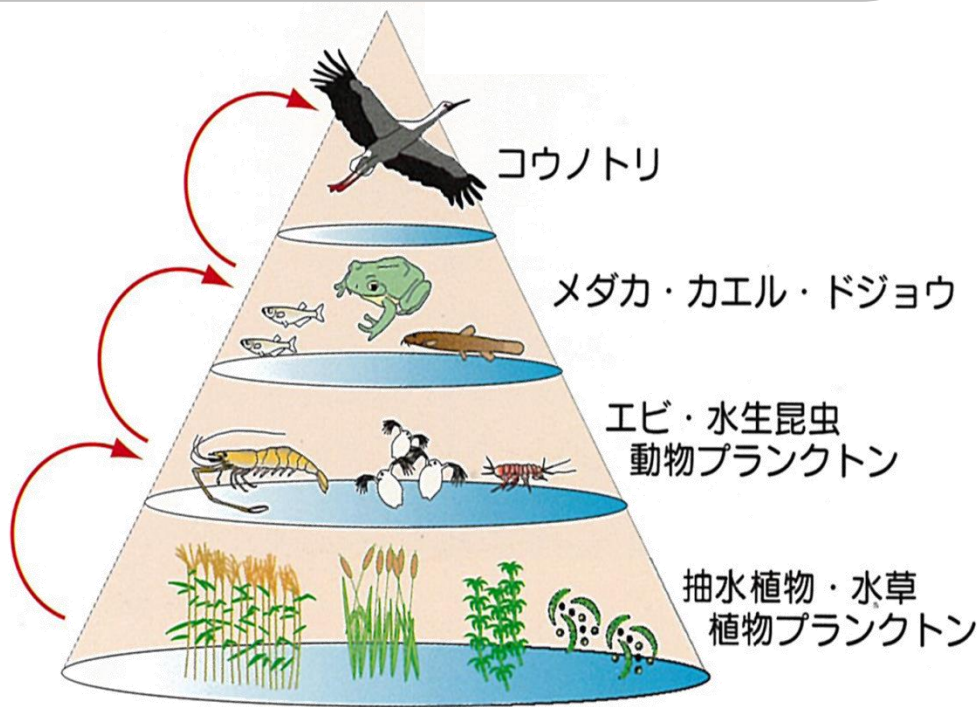
松の伐採による営巣場所の喪失

→コウノトリの野生復帰を目指し、**生物多様性を回復したい**

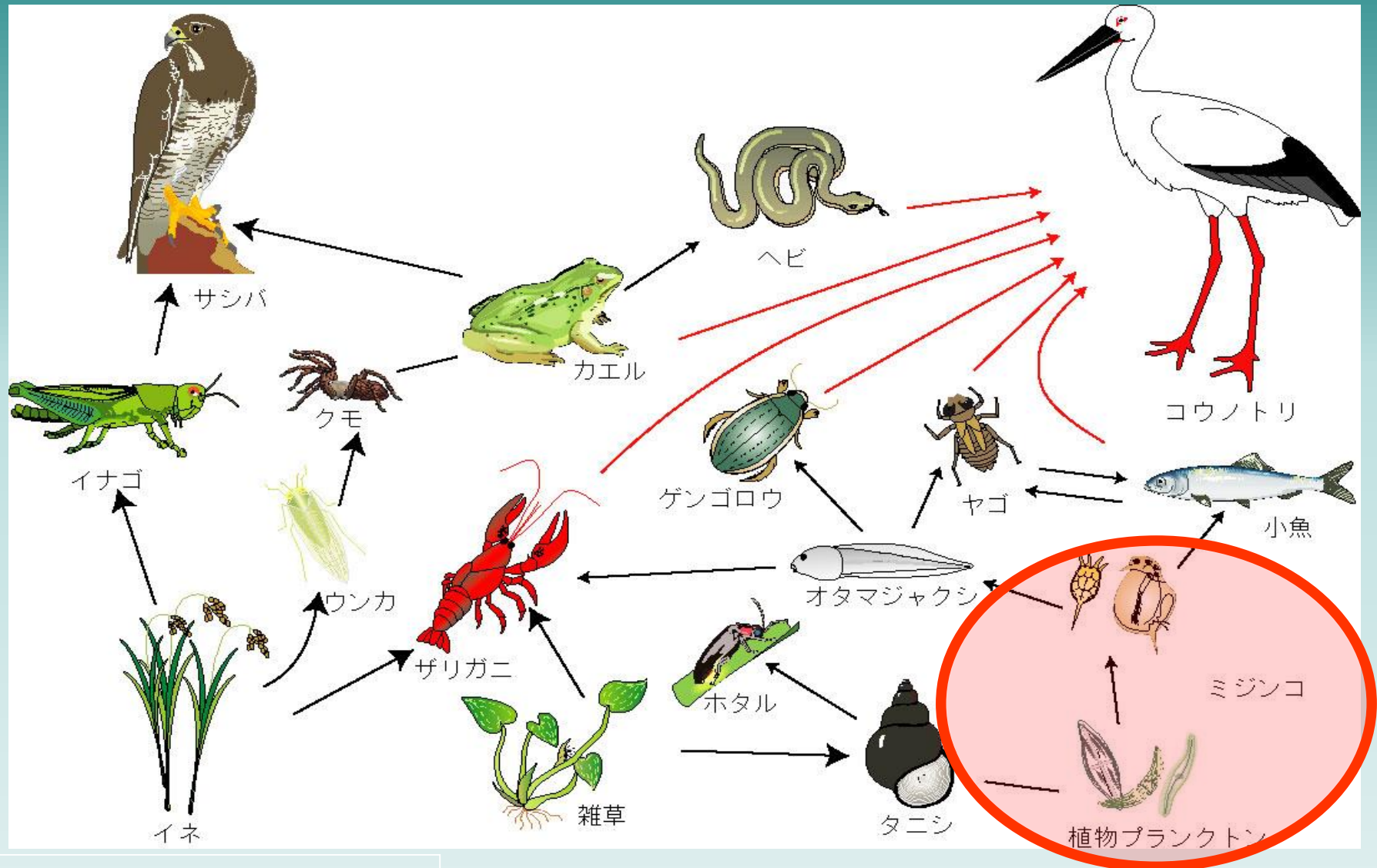


- ・「コウノトリ育む農法」
- ・「コウノトリ育むお米」

の誕生



肉食のコウノトリの生息には 生き物が豊かな環境が必要です



コウノトリ育む農法の 体系化で特に重視した点

コウノトリを育むため、慣行農法を見直す

農薬や化学肥料の削減

生き物を増やす工夫

虫

悪い虫・ただの虫・
よい虫を見分ける

↓
生態系の大切さ

病気

適正な施肥量
植付け密度を知る

↓
土作りの大切さ

生き物

微生物や水生生物
の働きを知る

↓
水管理の大切さ

雑草

雑草の特性
を知る

↓
抑草技術の習得

水田環境

↓
魚道・逃げ場の
設置

自分達が実践できる体系→定義や要件を整理

コウノトリ育む農法の定義

安全なお米と生き物を 同時に育む農法

おいしいお米と多様な生き物を育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法

コウノトリ育む農法の特徴

コウノトリと共存していくため、農薬の不使用や冬季湛水の実施など、環境への負荷を軽減した

コウノトリ 育む農法の1年

1年を通じコウノトリのえさとなる生きものを
どのように育てているのか見てみましょう。



春は早くから水を張り生きものいっぱい

少しでも生きものをふやすために田植えの1ヶ月前から水を張ります。それによりコウノトリの餌となるドジョウやカエルがふえていきます。

夏は生きものの成長 に合わせた水管理

オタマジャクシがカエルに、また、ヤゴが羽化するまで田んぼの水を落としません。水を落とした時に小魚が逃げこめる場所づくりも行っています。

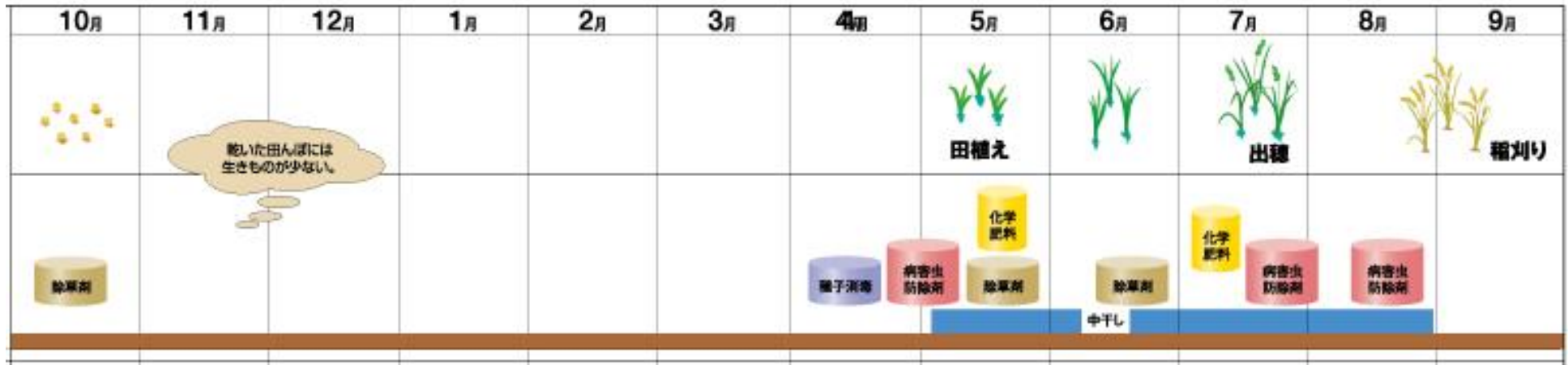
秋の稲刈り後米ぬかをまいて土作り

イネ刈りが終わると堆肥や米めかまをまいて、水をためる準備をします。稲刈り後、隠れ家をなくしたバッタなどを求めコウノトリ以外の鳥もやってきます。

冬も水を張り鳥の憩いの場に

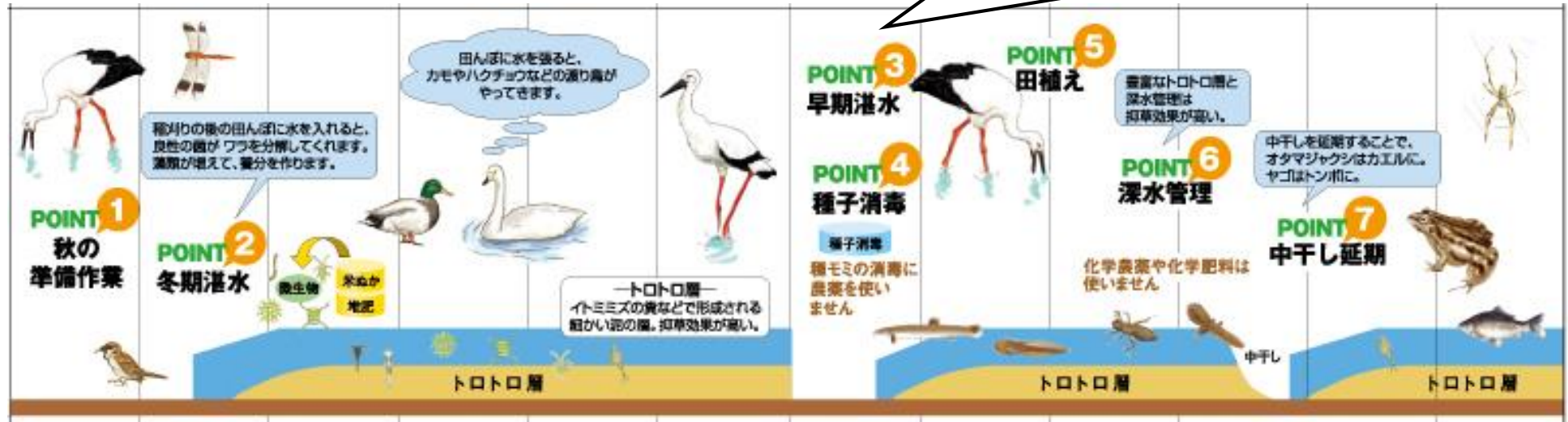
冬にも水を張ることで、イトミミズやプランクトンなどの小さな生き物がふえます。また、冬鳥たちの憩いの場にもなっています。

一般のお米



コウノトリ育むお米

慣行栽培と比べ、水田に水がある期間が圧倒的に多い



コウノトリ育む農法(水稻)の要件

	必須事項	努力事項
環境 配慮	①<u>生きものの確認</u> ・ 中干し前にカエルの変態確認 ②化学農薬削減 ・ (無)栽培期間不使用 ・ (減)当地比 7.5 割減 ＜使用農薬は普通物＞ ・ 温湯、食酢消毒、畦草管理 ③化学肥料削減 ・ 栽培期間不使用	生きものの確認 イトミズ、ユスリカ、カメムシ、 ウンカ、クモ ・ 魚道、生き物の逃げ場の設置 ・ 米ぬか、くず大豆等の施用
水管理	①冬水田んぼ、②早期湛水、③深水管理、④中干し延期	
資源 循環	牛糞堆肥、鶏糞堆肥等有機質資材を施用する場合は 地元産とし、土壌の状態により施用量を加減	
その他	認証の取得（有機JAS、ひょうご安心ブランド、コウノトリの舞、コウノトリの贈り物）	

コウノトリ育む農法と慣行栽培の違い

コウノトリ育む農法 無農薬

有機物が微生物の餌になり生態系の底辺を支える

堆肥等
有機物
散布

有機
肥料
散布

生きもの
確認

有機
肥料
散布

田んぼが生き物の
住処になる
田んぼの生き物が
害虫を制御する

10月
月

～

3

4月

5月

6月

7月

8月

稲刈り

9月

冬水田んぼ

早期湛水

深水管理

中干し延期

夏水管理

代掻き
田植え

慣行栽培

除草剤

化学
肥料
散布

農薬
散布

除草剤

除草剤

農薬
散布

化学
肥料
散布

農薬
散布

農薬
散布

代掻き
田植え

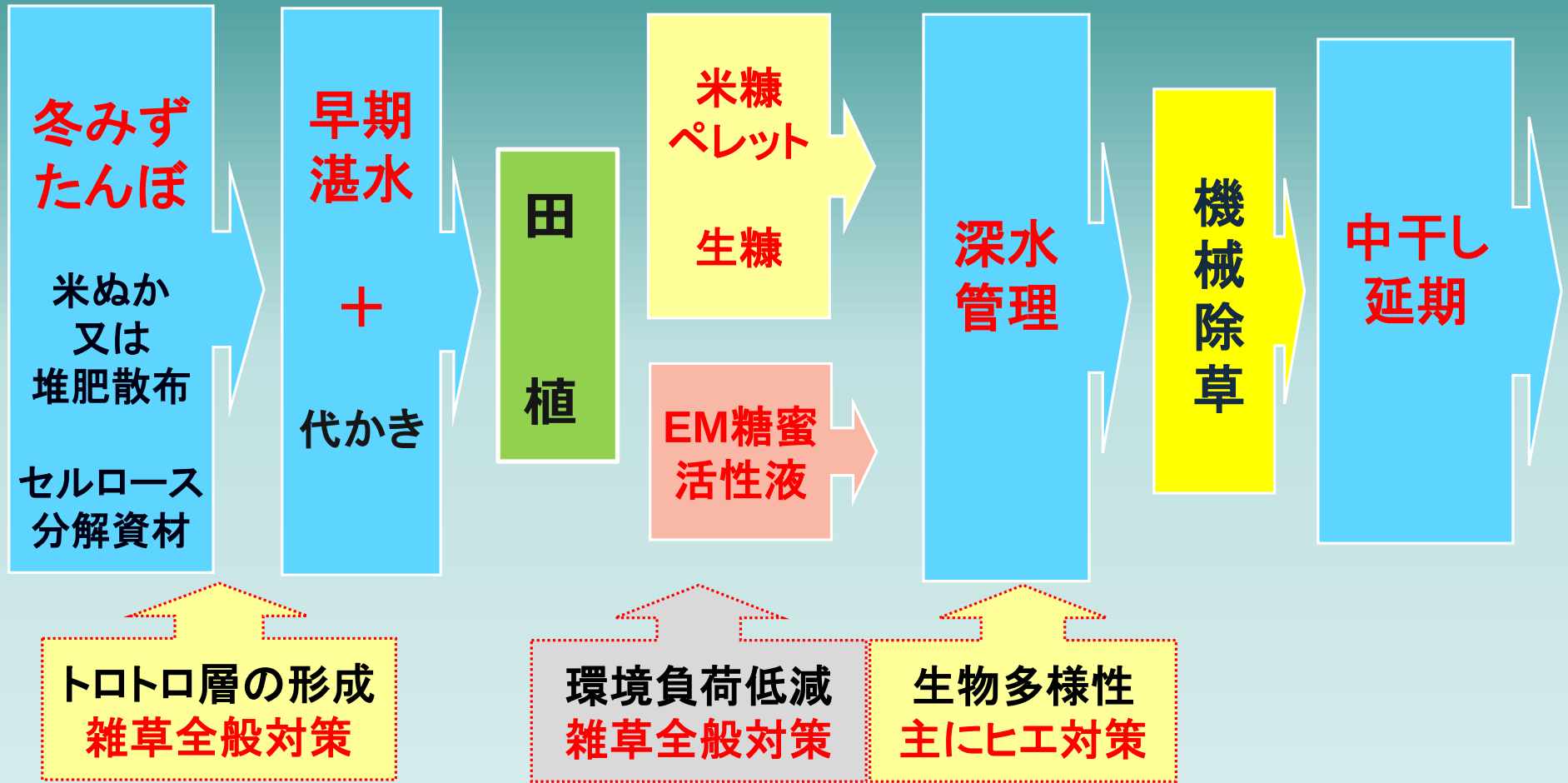
稲刈り

浅水管理

中干し

間断灌水

コウノトリ育む農法の抑草パターン (無農薬タイプ)



冬水たんぼは抑草のための土台づくり！

冬みずたんぼ状況 (湛水状況)

兵庫県豊岡農業改良普及センター提供

10月～3月



米ぬか 堆肥 散布(秋)



湛水・代掻き(晩秋)



雪景色



春まで草は生えない

早期湛水移行前のほ場の干し上げ

3月～4月



乾いたトトロ層と
イトミミズの跡

早期湛水

早期湛水開始 4月20日



田植え 5月20日

田植え前の概ね1ヶ月間湛水する

コウトリ育む農法における 豊富なイトミミズ群



土壌表面のかく乱
による雑草種子の
発芽抑制

脱糞による土壌表面
のマルチングで
雑草種子の発芽抑制



イトミミズ

冬みずたんぼ(湛水)や
早期湛水でイトミミズが
増える環境を確保



トロトロ層は雑草種子の発芽を抑える
効果がある。

田植後1ヶ月でイトミミズの多いほ場では、トロトロ層が3cm前後（中干し前では5cm前後）は確保されている。

ミミズが盛り上げた”トロトロ層“



ヒエが抑えられる

コウノトリ育む農法・茎の増え方に特長あり！ (6月下旬)



慣行水田



コウノトリ育む農法

慣行に比べ、穂数は少ないが一穂あたりのもみ数が多い

水管理の特徴 中干し延期

害虫を
食べてくれる

カエルになる7月上旬まで延期



生きもの調査 ～部会のルール～

- ・田植え後40日を目安に調査

オタマジャクシがトノサマガエルへ変態しているか

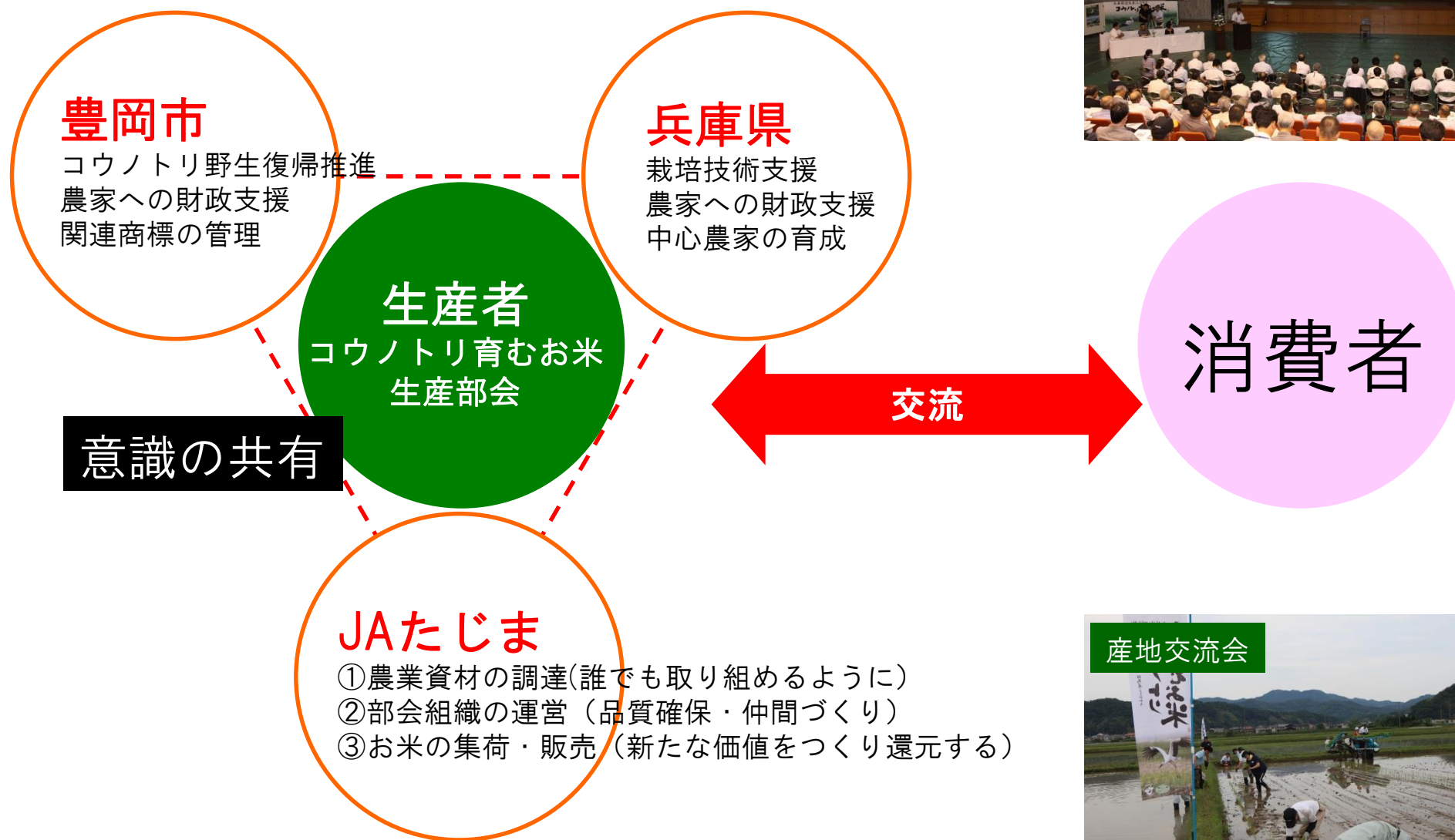
➡中干し開始



いろんな
生き物が
増える



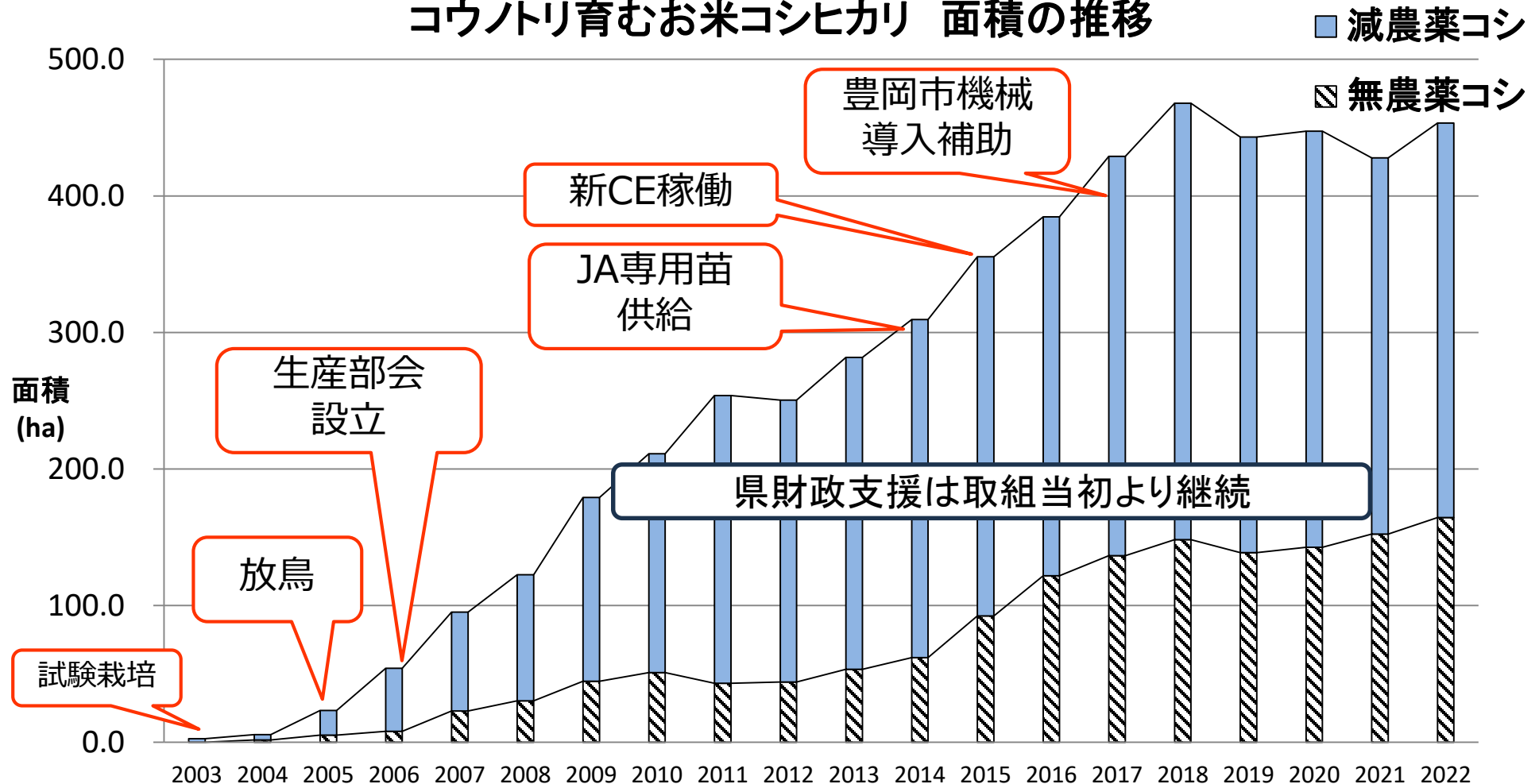
■三位一体の普及と消費者との交流



コウノトリ育むお米の生産面積

- ・ 2005年、豊岡市でコウノトリの放鳥（5羽）を実施
- ・ 2006年には生産部会が設立
- ・ 現在では部会員約250名、500ha拡大（2023年3月現在※酒米等面積全品種計）

コウノトリ育むお米コシヒカリ 面積の推移



コウノトリ育むお米の普及へ

無農薬苗の供給・施設荷受の拡大 ～誰でも取り組みやすい体制に～



専用マット苗 供給 2014年～

中苗マット苗(30日苗)

⇒抑草の深水栽培、病害虫に強い苗

3万枚の供給※R5年7月現在



生粳荷受

こうのとりカントリーエレベーター

2015年～稼働

50t ビン×88基・1t ビン×120基

⇒無農薬・有機JAS区分の受入可能

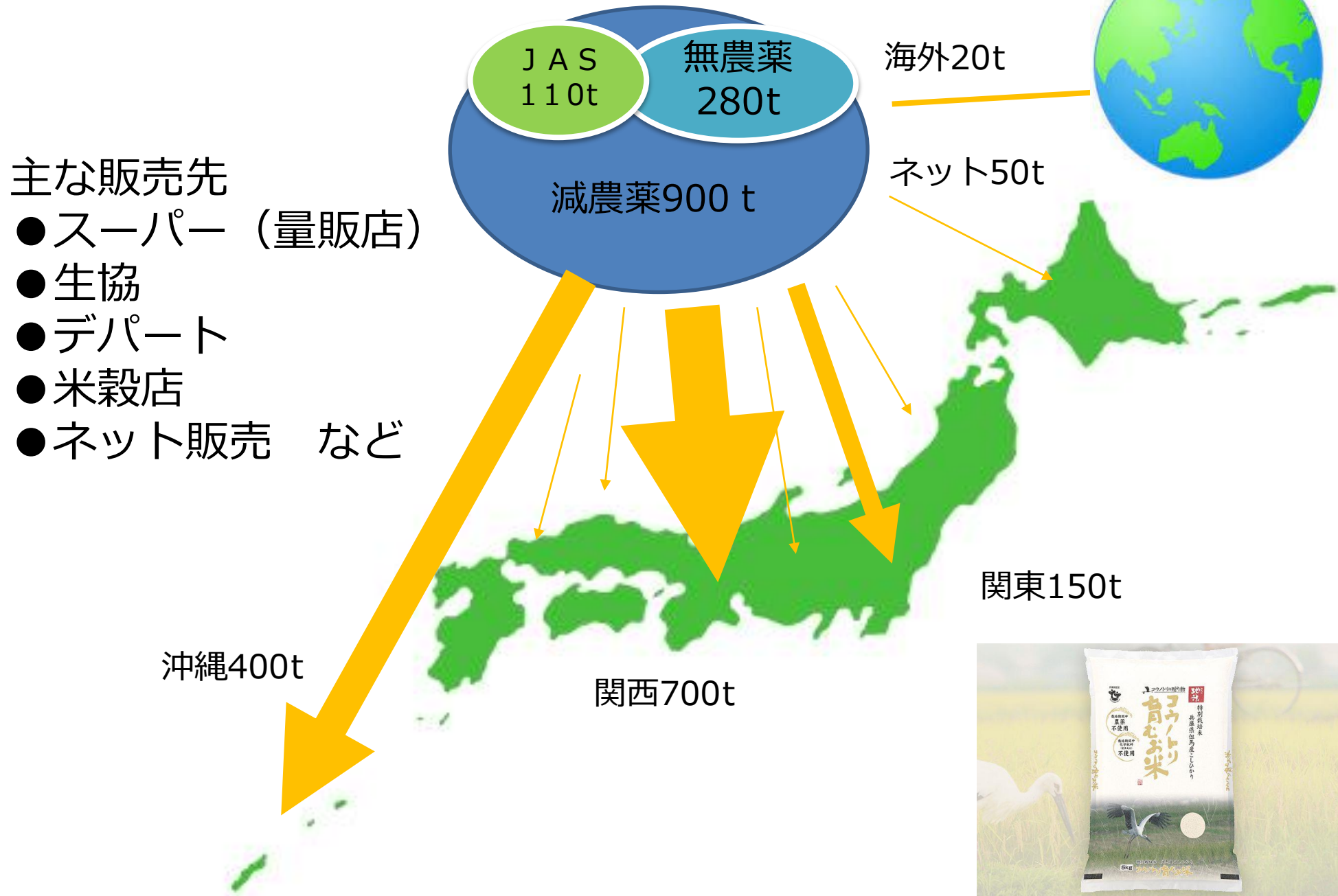
コウノトリ育むお米生産部会の育成

部会の主な活動

- ①栽培技術研修
- ②圃場巡回、生育調査、
生きものの調査
- ③栽培基準の検討
- ④資材とりまとめ
- ⑤認証取得
(JAS団体認証等)
- ⑥取引先への販売応援
- ⑦消費者との交流



コウノトリ育むお米の販売状況



コウノトリ育むお米 商品の拡がり

お米

うるち米



もち米



酒米



パックご飯、お米めん、米粉パンなどにも！



消費が増えれば生産が増える！



2007年 子どもたちが市長に直談判
「給食にコウノトリ育むお米を使ってください!」

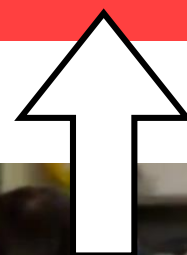
10年後



学校給食はすべてコウノトリ育むお米になった

2016年
豊岡の学校給すべてコウノトリ育むお米になった(減農薬)

無農薬
栽培米へ
2023年～段階的に



コウノトリ育むお米 過去の受賞歴 等

- 第 1回 生物多様性日本アワード特別賞受賞
- 第12回 グリーン購入大賞環境大臣賞受賞
- 第42回 日本農業賞（第9回食の架け橋賞）大賞受賞
- 2015年 ミラノ国際博覧会 出展/日本館フードコート使用
- 2015年 但馬産業大賞 自然と共生する環境創造事業部門
- 2016年 コウノトリ育む農法のお米 米・食味分析鑑定コンクール金賞
- 2017年 COOL JAPAN AWARD 2017受賞
- 2021年 「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」
有機農業・環境保全型農業部門 農林水産大臣賞受賞







コウノトリの羽数

野外 383羽(全国)

2023年10月末現在

